

東京都西多摩二次医療圏の脳卒中患者の病院・老人保健施設の利用に関する調査の解析

研究分担者 高橋 真冬 青梅市立総合病院神経内科 部長
研究分担者 織田 順 東京医科大学救急・災害医学分野 准教授
研究協力者 小机 敏昭 西多摩医師会
研究協力者 中野美由起 青梅市立総合病院地域医療連携室

研究要旨

【目的】東京都の西多摩医師会内に設置されている西多摩脳卒中連携検討会により過去4回にわたり行われた調査をもとに西多摩二次医療圏の脳卒中患者が病院や介護施設をどのように利用しているか、その特徴について検討する。

【方法】西多摩二次医療圏の人口の分布、地域の医療資源について地域の特徴を解析し、その上で医療機関を急性期病院、回復期リハビリテーション病床群、慢性期病院、介護老人保健施設に分けて入院前の状況・入院中の様子、移動先について、それぞれの施設の総病床数を基準にしてその比率で全体を推定する。入院中の様子については平均在院日数と一日平均患者数を用いる。また医療情報公開システムや患者調査を用いて脳卒中患者が他の疾患と比べてどのような特徴をもって圏域内の医療機関を利用しているか解析する。

【結果】東京の郊外に位置する西多摩二次医療圏の人口動態は全国の人口動態に似て人口の増減がほとんどなく、また人口構成や分布が全国平均と近似していた。ところが、脳卒中患者に対応できる救急を含む一般病院の数や医療従事者の数は全国を下回り、療養のための慢性期病院あるいは介護施設は全国平均を上回っていた。西多摩二次医療圏内で毎年およそ1096（人）が脳卒中に罹患していると推定されたが、急性期にはほとんどが圏域内の病院に収容されていると考えられるが、回復期病床は他の圏域を利用している可能性があり、慢性期病院や療養施設は逆に他圏域の患者の利用が多かった。脳卒中の場合、介護老人保健施設では医療行為が難しく脳卒中患者の在所日数も短い一方で、慢性期病院では脳卒中の場合入院日数が長かった。日数も長介護老人保健施設からの転出先の多くが急性期病院を含む医療機関であり、状態の不安定な患者や在宅療養が困難な患者が多かった。

【考察】脳卒中患者の場合、疾病の性質から、身体状態が不安定で介護老人保健施設での医学的管理が難しく、慢性期病院にとどまっている可能性があった。慢性期病院や介護老人保健施設では脳卒中患者が在宅へ戻ることが難しいかあるいは、戻れない患者の対応をしていることが予想された。用語が十分に定義されていない可能性があった。

【結論】西多摩二次医療圏での急性期の脳卒中患者の診療は全国と比して十分な体制が整っているとは言えない。西多摩脳卒中医療連携検討会による調査では、脳卒中の場合、全国の病床の調査と時に大きな差が生じているが、これが西多摩二次医療圏の特徴といえるか、今後検討する必要がある。

A. 本研究の目的

近年、脳梗塞に対してrt-PAによる治療が実施さ

れるようになり、発症後短時間に専門の病院を受診することが必要になが、地元の急性期病院で治療を受けることが難しく、圏域外に搬送されることもあ

る。また急性期病院での治療が一段落しても身体機能の障害のために自宅に戻ることが難しく、機能の回復のためにリハビリテーションによる治療が必要になる場合や、意識障害が遷延し、状態が不安定な場合は慢性期病院等での療養が必要になることがある。ところが、脳卒中発症直後にどのくらい地元の急性期病院を利用し、その後回復期リハビリテーション病床や療養型の病院・施設へのどのくらいの割合で移動しているか不明の点も多い。そこで、東京都西多摩地域の脳卒中患者の急性期から療養に至るまでの患者の施設の利用状況について、最初に東京都西多摩地域の人口分布等一般的な背景を調査し、その上で、脳卒中患者が地域の医療福祉資源をどのように利用しているか西多摩脳卒中地域連携検討会で西多摩二次医療圏全域の医療関連施設に行った調査をもとに検討する。

B. 本研究の方法

(1) 西多摩二次医療圏域の居住者との様子と医療介護関連の資源：

救急診療には地勢が大きく関与することが指摘されており（文献1）、最初に東京都西多摩二次医療圏の居住者の様子について人口統計を用い、次にこの圏域の医療介護施設の設置数・従業員数などの脳卒中に関連する医療療養資源について対人口10万人当たりの医療環境として、全国、東京都全体と比較する。

(2) 西多摩二次医療圏で必要な病床数：

西多摩医師会内に設置された西多摩脳卒中医療連

携検討会が西多摩二次医療圏の全医療機関（急性期病院・回復期・慢性期）・薬局・介護関連事業所（介護老人保健施設・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所）を対象として平成21年、22年、24年、26年に脳卒中患者の動態調査を行い、対象患者の数以外を急性期病院・回復期・慢性期および介護老人保健施設の群毎に比率で報告されている（表1）（文献2、文献3、文献4、文献5）。

この調査結果をもとに西多摩二次医療圏の脳卒中患者についてその施設に至る経路、利用状況（平均在院日数・一日入院患者数）、さらに移動先別に脳卒中中の患者数を推定する（365日を一年とし、常に満床であることを前提とし、未回答施設の患者については、病院による特徴（経営方針）を考慮せず、該当病床数分を同様の比率で上乘せして単に病床数から比率で全体数を算出する。断りが無い限りすべて年間の患者数）。脳卒中患者の地域の資源の利用状況をまとめる。

西多摩二次医療圏の全患者を対照として脳卒中患者の動態の特徴を検討するため、全都・全国のデータならびに施設に至る状況および移動先については、患者調査あるいは病院調査を用い、該当する施設群の利用状況は医療機能情報提供制度（医療情報ネット）のデータとして、東京都医療機関情報システム“ひまわり”で公開されている、病院ごとの病床数、対象患者数は平均在院日数、一日平均入院患者数で推定する（図1）。

この医療機能情報提供制度（医療情報ネット）は平成18年の第五次医療法改正で導入され、東京都では東京都医療情報機能システムを東京都医療機関

表1：西多摩医師会の西多摩脳卒中医療連携検討会による調査

	調査基準年月	調査内容	回収率
第1回調査	平成21年10月1日	患者の動態調査	54.9%
第2回調査	平成22年10月1日	患者の動態調査・食事・褥瘡の対応など	-
第3回調査	平成24年10月1日	患者の動態調査	45.2%
第4回調査	平成26年10月1日	患者の動態調査・状態の評価・圏域内外の退院	61, 6%

図1：延べ患者数・退院患者数・在院日数・一日平均入院患者数のおおよその関係

$$\boxed{\text{年間延べ患者 (入所者) 数}} = \boxed{\text{年間退院患者 (退所者) 数}} \times \boxed{\text{在院 (在所) 日数}} = \boxed{\text{一日平均入院患者 (入所者) 数}} \times 365$$

案内サービス“ひまわり” <http://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.asp> として、各医療機関の病床種別及び届出・許可病床数や前年一日平均患者数および前年平均在院日数などを公開している（文献6、文献7）。さらに平成18年4月からは介護保険法に基づき「介護サービス情報公表システム」がスタートし東京都では介護事業所検索（介護サービス情報公表システム）を用いて利用者総数、3か月間の退所者数、入所者の平均的な入所日数が掲載され、宿泊型介護施設全体の入所の様子を公開している。<http://www.kaigokensaku.jp/13/index.php>（文献8）

C. 結果

1. 西多摩二次医療圏の住民

(1) 東京都西多摩二次医療圏の人口統計

国勢調査をもとに西多摩二次医療圏の人口の分布を調査したところ

- 1) 人口はおよそ40万人、人口増加率がほぼ0で、就業年齢の比率は全国並みである。
- 2) 人口密度・人口集中地域の面積比率が全国の2倍程度である。

(2) 西多摩二次医療圏の医療環境

- 1) 西多摩医師会・歯科西多摩医師会・薬剤師会・保健所・三次救急病院が1か所のみ
- 2) 医師・看護師・薬剤師数・一般病院・診療所は全国平均を下回っている。
- 3) 療養施設（精神科病院・療養型の病院・介護老人福祉施設）が多い。

(3) 動態調査のしやすい地域

医師会、歯科医師会・薬剤師会・保健所もほぼ同じ領域で活動しているため比較的資料の収集が容易である。

2. 脳卒中患者の動き

(1) 入院患者の動き

東京都西多摩二次医療圏の急性期病院には毎年1096（人）の脳卒中患者が入院するが、そのうちおよそ60.7%（=665/1096）にあたる665（人）が救急車で搬送されてくる。入院後に回復期リハビリテーション病床群に転院するものは27.5%（=301/1096）で慢性期の病院への転院は11.6%

（=127/1096）であった。10%は圏域外の回復期リハビリテーション病床を利用していた。

慢性期病院には圏域内の急性期病院と回復期病床から56.8%（=（43+433）/838）が転院してくるが、圏域外の275/27+275と対象患者の90.2%が圏域内で移動していた。

介護老人保健施設へは慢性期病院から66（人）、回復期から58（人）、急性期病院から81（人）となり全体で361（人）を受けの一方でその内113（人）は急性期病院へ転院していた。（図2）。

急性期病院では退院と入院継続が半々、回復期ではおよそ2/3が在宅へ戻る。慢性期病院では在宅へ戻る患者数と在宅から入院する数はほぼ一致している。およそ1/3が退院するが退院患者のうち89%が死亡退院していた（図3）。

以上より西多摩二次医療圏では急性期病院に入院している患者がほぼ圏域で収容されていると考えると年間1096（人）の患者が発症し、圏域外の回復期リハビリテーション病床を利用しながら慢性期の病院に転院している。慢性期病院では自宅への退院が55（人）で入院が56（人）あることから慢性期の病院では転出（院外の施設からの移動）してきた患者が自宅へ戻ることは少なく405（人）が死亡している。また他圏域の利用者多いことが特徴といえる（図1）。また介護老人保健施設から自宅へ戻るものは53（人）であるが、自宅から入所するものは自宅へ戻る数を上回る79（人）であり、また医療機関への転出が目立っていた。

西多摩二次医療圏全体でみると、在宅へ復帰する人は800（人）、死亡する人495（人）で1295（人）、在宅療養が簡単にはできない患者がおよそ1276（人）であった（圏域外からの流入や自宅からの入院なども考慮すると、対象となる患者は2571（人）と推定できる）。

(2) 療養の様子

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査と医療機関案内サービス“ひまわり”で病院の病床数から推定して脳卒中患者の療養の様子をまとめる（表2）。西多摩二次医療圏では脳卒中で入院した患者は、急性期病院では全患者の37.1%（=1096/29530）を占めるが、回復期病床群では36.5%（=275/754）、慢性期病院では11.2%（=838/7450）、介護老人保健施設では34.9%（=357/1022）となった。また脳卒中患者の場合は他の疾患に比べて急性期病院では平均

図2：推定された西多摩二次医療圏における脳卒中患者の流れ（数字は年間患者数） 帰宅できない患者の流れ

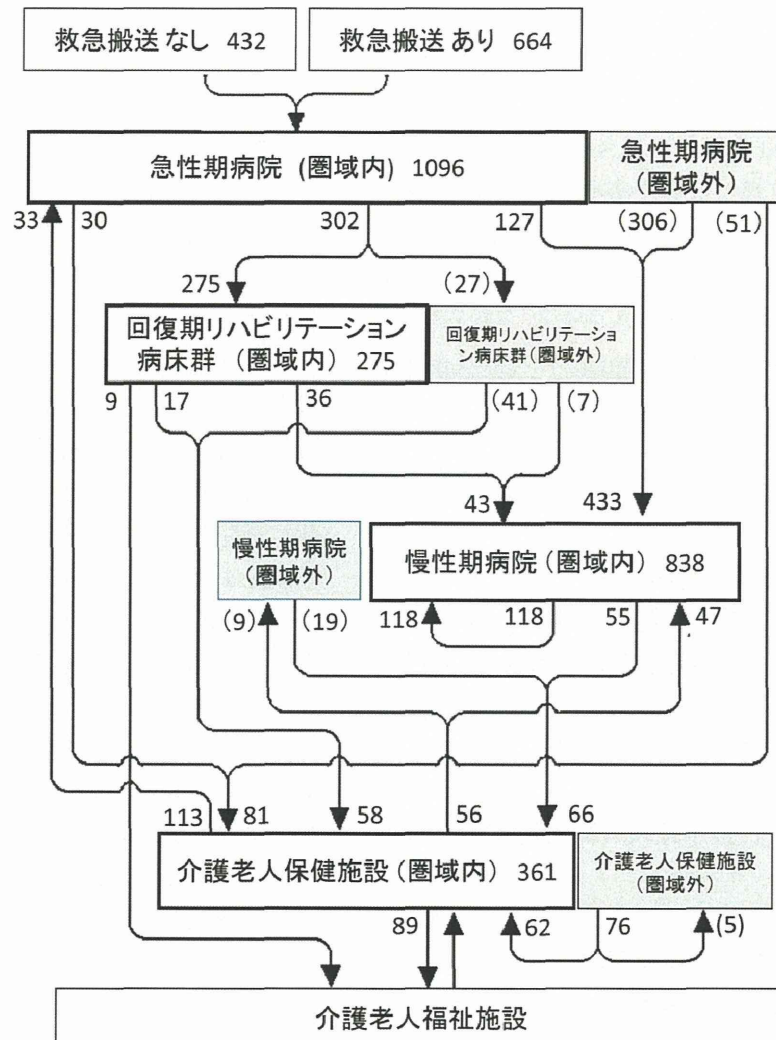


図3：施設毎の退院患者数と入院の継続が必要な年間患者数

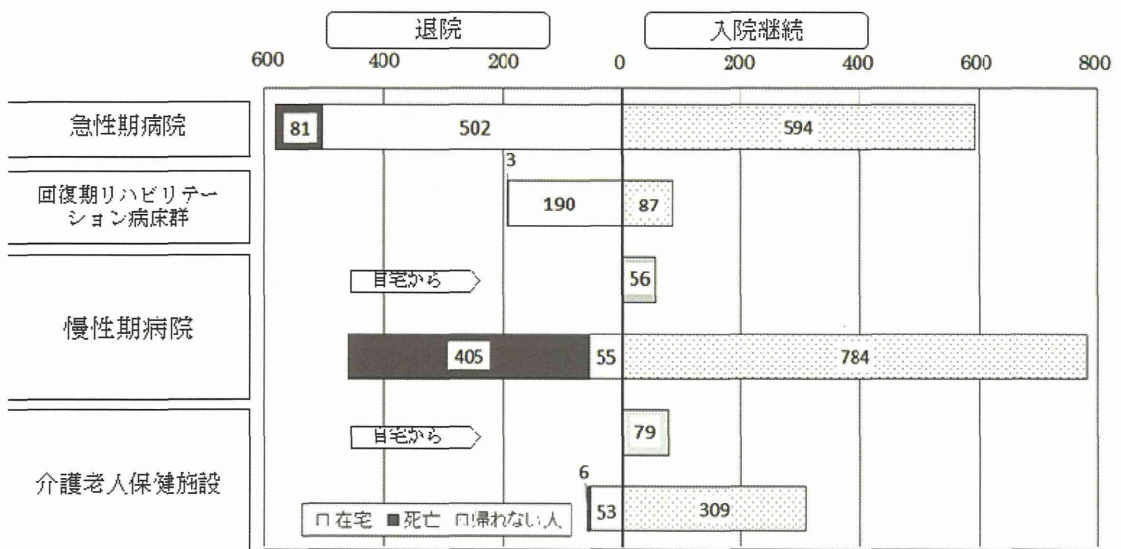


表2：西多摩二次医療圏の医療施設での様子

		脳卒中	全疾患
急性期病院	患者数（年間）	1,096	29,530
	前年平均在院日数	24.4	14.4
	一日平均入院患者数	73.3	1,115
回復期リハビリテーション 病床群	患者数（年間）	275	754
	平均在院日数	99.6	-
	一日平均患者数	75.8	-
慢性期病院	患者数（年間）	838	7,450
	平均在院日数	318.0	104.6
	一日平均患者数	730.1	2,134.7
介護老人保健施設	入所者数（年間）	357	1022
	平均在所日数	289.3	356.8
	一日平均入所者数	286.0	999.0

在院日数が長く、慢性期病院でもその傾向があった。介護老人保健施設では入所者のおよそ1/3を脳卒中患者が占めるものの、平均在所日数は81.0% (=289/357) と他の疾患に比べて短かった。脳卒中患者は慢性期病院に多く、長期に入院している傾向があった。

D. 考察

1. 西多摩二次医療圏の位置づけ

(1) 地域性

西多摩二次医療圏は三方を山に囲まれた地域で、西は秩父多摩国立公園として2000メートル級の山が連なり、山梨県北都留郡を源として東に向かって東京都を縦断して東京湾に注ぎ込む多摩川の上流とその支流の秋川流域を中心とした4市3町1村（青梅市・福生市・あきる野市・羽村市・瑞穂町・日の出町・奥多摩町・檜原村）で西多摩二次医療圏が構成され（表3）、東側はJR八高線と米軍横田基地の滑走路が南北に走り、国営の昭和記念公園などで他の地域との交流が遮られている。この地域は大きく二つに分けられ、西側の山岳地帯は甲州街道の裏街道として青梅街道・五日市街道そして奥多摩街道の沿線に集

落が点在し、大家族制の限界集落が存在し、林業などの第一次産業を中心とした農村型の生活が営まれる（山梨県北都留郡）。東側は多摩川水系の扇状地として、工業団地および東京の都心へ通勤するための核家族化した住宅地区でいわゆる都市型の生活圏を形成している。診療圏は西多摩二次医療圏よりやや広く多摩川の源流となる山梨県北都留郡の小菅・丹波山村および埼玉県の飯能市および入間市の一部と考えられる（図4）（文献9）。

西多摩二次医療圏の面積は東京都全体のおよそ1/4で、人口は東京都全体のおよそ3.0% (=397,286/13,159,388) にとどまり、人口集中地域は全国では3~4%であるが、西多摩二次医療圏では7~8%になっている。また国勢調査で昭和55年からの各地域の人口増減率の変化をみると、東京都全体では昭和60年以後人口増加率がマイナスで推移し、平成12年から再び増加傾向にあるが、西多摩二次医療圏では平成2年を境にして人口の増加率が減少し、平成12年頃よりほぼ0となり、全国の人口増加率と近似した動きを示している。また就労人口は東京都全体特別区部では全国平均に比べて4~5%高く、西多摩二次医療圏でも全国平均より高い傾向があるが、平成22年の国勢調査では全国平均とほとんど同

図4：西多摩二次医療圏



表3：西多摩二次医療圏の各市町村の総人口

調査名		平成22年国勢調査	住民基本台帳人口
調査日		平成22年10月1日	平成25年3月31日
全国		128,057,352	128,373,879
東京都全体		13,159,388	13,142,640
西多摩二次医療圏		395,785	395,508
西多摩郡	青梅市	139,339	138,431
	福生市	59,796	59,055
	羽村市	57,032	57,133
	あきる野市	80,868	81,804
	日の出町	16,650	16,989
	瑞穂町	33,497	33,814
	奥多摩町	6,045	5,773
	檜原村	2,558	2,509

平成22年国勢調査 住民基本台帳人口

表4：西多摩二次医療圏と東京都全体、全国の人口等の比較

		単位	全国	東京都全体	西多摩二次医療圏
総面積（北方地域及び竹島を除く）		km ²	372,924	2,189	573
人口総数		人	128,057,352	13,159,388	397,286
平成17年～22年の人口増減率		%	0.23	4.63	-0.77
人口密度（人/総面積）		人/km ²	342	6,045	691
人口集中地区面積		k m ²	12,744	1,074	54
	同一地域での割合	%	3.4	49.1	9.4
人口集中地区人口（人）		人	86,121,462	12,917,131	319,549
	同一地域での割合	%	67.3	98.2	80.4
年齢別割合 （総数）	15歳未満人口割合	%	13.22	11.39	13.07
	15～64歳人口割合	%	63.76	68.24	63.89
	65歳以上人口割合	%	23.01	20.37	22.83
一般世帯	一般世帯数	世帯	51,842,307	6,382,049	152,970
	一般世帯人員数	人	125,545,603	12,978,624	381,985
	一般世帯平均人員数	人	2.42	2.03	2.50
総就業者数		人	56,151,013	5,190,839	169,156
15歳以上就業者数	第1次産業就業者の割合	%	4.24	0.43	1.27
	第2次産業就業者の割合	%	25.15	17.57	28.78
	第3次産業就業者の割合	%	70.61	82	69.95
昼間人口比率		%	100	118.37	91.59

平成22年国勢調査をもとに作成

図5：全国・東京都全体と西多摩二次医療圏の、人口の増減（左）および生産人口比率の推移

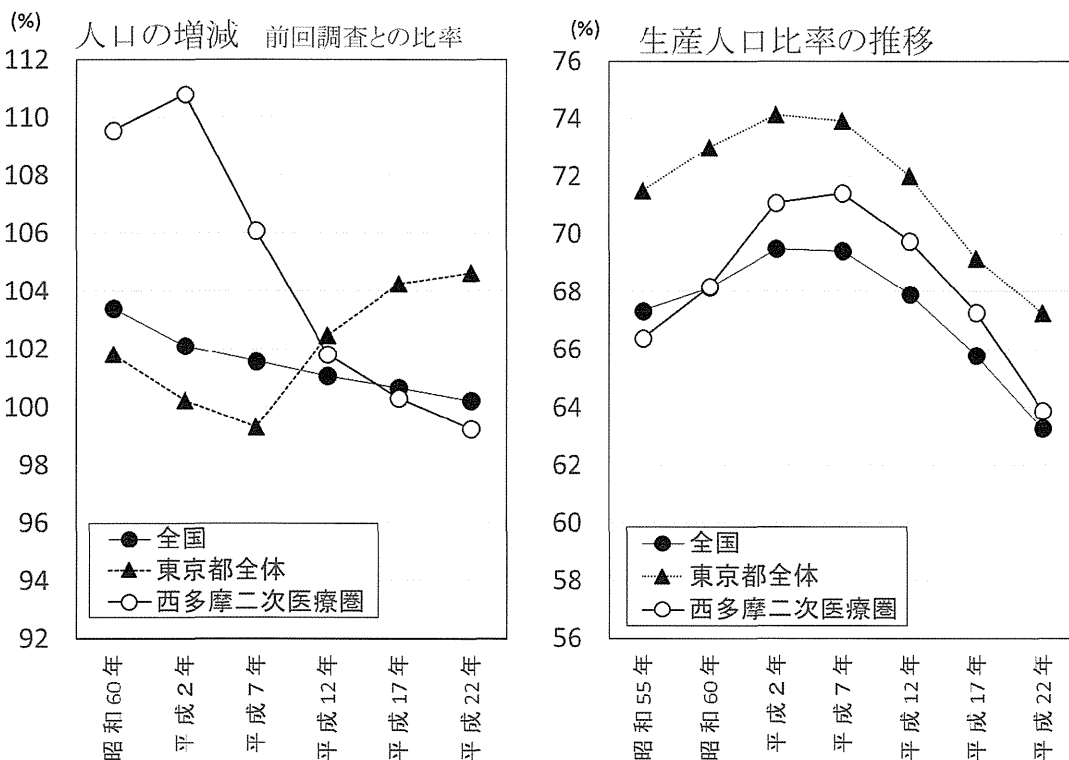


表5：対人口10万当たりの医療関連施設の比較

		全国総数		東京都全体		西多摩二次医療圏	
		施設数	病床数	施設数	病床数	施設数	病床数
総数		6.7	1,225.9	4.9	971.2	7.6	1,691.0
救急告示病院		3.0	660.5	2.3	550.0	1.8	430.6
地域医療支援病院		0.4	162.2	0.2	73.0		
精神科	病院	0.8	197.5	0.4	96.6	2.3	668.3
	一般病院	0.5	67.2	0.5	78.7	0.0	0.0
一般病院	総数	5.8	1,028.5	4.5	874.6	5.3	0.0
	療養病床	3.0	255.7	1.9	170.7	3.3	580.8
	感染症病床	0.3	1.4	0.1	1.1	0.3	1.0
	結核病床	0.2	5.1	0.1	4.6		
	一般病床	4.6	699.0	3.7	619.5	2.3	441.0
	回復期病床数 ²⁾	0.9	51.1				
	回復期病床数 ³⁾			0.6	40.1	1.0	53.1
一般診療所数	総数	78.3	0.0	97.1	0.0	64.7	0.0
	有床診療所総数	7.2	94.5	3.8	34.1	4.0	39.9
	療養病床を有する一般診療所	1.0	9.7	0.1	1.4	0.3	4.8
	無床診療所総数	71.1	0.0	93.3	0.0	60.7	0.0
歯科診療所数	総数	53.5	0.0	81.0	0.0	47.8	0.0
	有床	0.0	0.1	0.0	0.1		0.0
	無床	53.5	0.0	81.0	0.0	47.8	0.0
介護老人福祉施設 ⁴⁾		5.3	380.7	3.3	302.7	15.4	1,664.9
介護老人保健施設 ⁴⁾		3.1	278.3	1.4	149.1	3.3	345.1
介護療養型病床医療施設 ⁴⁾		1.3	56.0	0.5	44.2	2.0	227.6

平成25年医療施設調査

1) 人口は平成25年3月31日住民基本台帳人口・世帯数、平成24年度人口動態（市区町村別）を用いる

2) 石川誠（2013）「回復期リハ病棟の課題と展望」（文献10） 3) リハビリテーション医療実施医療機関名簿による（文献11）

4) 平成25年 介護サービス施設・事業所調査

様の比率になっている（図5）。人口密度は114,115 km²/人で全国平均より高く、人口集中地区も西多摩二次医療圏では9.4%で全国5%に比べて広いものの、圏域の都市部の人口密度は全国に比べて低かった（表4）（文献9）。

2. 西多摩二次医療圏の医療事情

(1) 医療関連施設

西多摩二次医療圏には保健所・医師会・歯科医師会・薬剤師会・三次救急病院が一つ筒設置され、ほぼ同じ地域をカバーしている。病院は30施設あり、

そのうち一般病院が21施設、精神病院が9施設、救急告示病院が7施設、回復期病棟を持つ医療機関が4施設、介護医療療養型病床が10施設で、人口10万当たりで全国、東京都全域と比較すると病院数・病床数ともに全国平均を上回っていた。とくに精神科病院ならびに療養病床を有する病院とその病床数が多かったが、一般病床は全国平均の62.6%にとどまっていた。またこの圏域には介護老人福祉施設が60施設あり、全国的にみて長期療養の可能な施設が集中して設置されており、大都会のベッドタウンとしてばかりではなく、余裕のある土地に、多くの老人福祉施設が建設され高齢者用の病床数が日本で最も多

い地域といえる（表5）。

(2) 医療従事者数

西多摩二次医療圏の医療従事者数を人口10万人当たり数でみると保健医療従事者のうち准看護師・理学療法士・作業療法士・看護業務補助者・栄養士・精神保健福祉士は全国平均を上回っていたが、医師・歯科医師・薬剤師・保健師・看護師・歯科衛生士・歯科技工士などは全国平均を下回っていた（表6）。

(3) 東京都西多摩医師会の脳卒中の地域連携に関する活動

表6：人口10万人当たりでみた西多摩二次医療圏の医療従事者

		全国	東京都全体	西多摩二次医療圏		全国	東京都全体	西多摩二次医療圏
総数		1,560.70	1,404.10	1,550.30	歯科衛生士	4.0	3.7	2.3
医師	総数	161.0	206.4	131.8	歯科技工士	0.6	0.9	0.0
	常勤	129.4	159.8	99.1	診療放射線技師	32.2	33.3	23.6
	非常勤	31.6	46.5	32.7	診療エックス線技師	0.2	0.2	0.0
歯科医師	総数	7.9	12.9	2.1	臨床検査技師	40.3	45.7	26.5
	常勤	6.3	9.8	1.3	衛生検査技師	0.1	0.1	0.0
	非常勤	1.6	3.2	0.8	臨床工学技士	12.9	11.9	4.8
薬剤師		35.6	36.5	31.2	あん摩マッサージ指圧師	1.4	1.2	1.5
保健師		4.0	6.6	0.0	柔道整復師	0.4	0.2	1.0
助産師		16.8	21.1	17.1	管理栄養士	16.0	12.6	12.7
看護師		581.9	528.8	466.2	栄養士	3.9	4.7	6.0
准看護師		110.9	62.9	159.8	精神保健福祉士	6.5	4.2	10.9
看護業務補助者		155.9	119.5	309.6	社会福祉士	6.5	5.3	5.3
理学療法士(P T)		48.1	35.3	39.8	介護福祉士	31.3	17.0	30.1
作業療法士(O T)		29.2	19.1	32.1	その他の技術員	13.0	10.7	9.8
視能訓練士		3.0	3.8	1.6	医療社会事業従事者	7.2	5.3	6.5
言語聴覚士		9.8	7.2	9.1	事務職員	157.9	144.1	119.2
義肢装具士		0.0	0.0	0.0	その他の職員	62.2	43.0	89.6

平成20年「病院報告」(厚生労働省)、平成20年「医療施設調査」(厚生労働省)、平成20年東京都全体の人口(推計) 平成25年3月31日住民基本台帳人口をもとに対人口10万で算出。

平成12年に東京都から西多摩二次医療圏保健医療協議会を通じ西多摩医師会内に西多摩脳卒中医療連携検討会が設置された。委員は西多摩医師会医師・公立病院の専門医師・看護師・慢性期病院医師・歯科西多摩医師会委員・保健所長・薬剤師会長・行政の医療福祉担当者・診療所医師・医療ソーシャルワーカーなどで構成され、毎年数回の会議を行い、地域の連携に必要なツールの作成（連携リスト・患者情報シート・生活リハビリ手帳・連携マニュアルVol.1（用語集）、Vol.2（判断・対処集））、脳卒中患者動態調査、症例検討会、市民公開講座などが行われてきている。

3. 急性期病院

(1) 急性期病院とされるもの

西多摩脳卒中医療連携検討会では、発症間もない脳卒中患者を診療する五つの病院を急性期病院として調査してきた。ここでいう急性期病院は「東京都

全体保健医療計画」における脳卒中急性期医療機能を担う医療機関（文献12）に加えて、脳卒中患者を積極的に受け入れる救急告示病院としたもので、回復期リハビリテーション病床45床を除く一般病床1445床が急性期病院にしている。

(2) 急性期病院への入院と脳卒中の分類

過去4回に行われた西多摩脳卒中医療連携検討会による調査から、脳卒中で入院した患者は調査年により大きく変わりなく毎年およそ1095.8（人）と推測される。全脳卒中患者うち救急搬送されたものはおよそ60%（665例）で、くも膜下出血患者の救急車による搬送が増加している（表7）。

東京都脳卒中救急搬送体制実態調査（文献12）によれば一週間の全救急搬送者約1万件のうち脳卒中は全体の3.6~4.1%（413から398件）であった（表8）。平成23年の「患者調査」では救急車で搬送される虚血性心疾患の患者は10%（=0.2/2）だが、脳血管疾患（脳

表7：東京都西多摩二次医療圏の施設への脳卒中の入院件数とその種類

	調査年								推定患者数			
	平成21年度		平成22年度		平成24年度		平成26年度		平均値	標準偏差	比率%	
回答病院数	3		5		4		3		3.8	1		
回答病院一般病床数	1,099		1,445		1,269		1,099		1,228.00	165.4		
	調査数	推定数	調査数	推定数	調査数	推定数	調査数	推定数				
患者数	786	1,033	1,043	1,043	989	1,126	898	1,181	1096	61		
救急車で来院した患者数	523	687	611	611	532	606	573	753	664	60		
救急搬送比率(%)	66.5		58.6		53.8		63.8		61	4		
脳卒中の分類	脳梗塞	538	707	655	655	580	660	552	726	687	30	61.2
	脳出血	189	249	253	253	248	282	194	255	260	13	23.2
	くも膜下出血	38	50	68	68	63	72	70	92	71	15	6.3
	一過性脳虚血発作	21	28	41	41	56	64			44	15	4.0
	その他	-		26	26	42	48	82	107	60	34	5.4

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査
 註) 各調査年の平均値から推計しているために、その合計が患者数と一致しない。

表8：救急搬送件数に占める脳卒中の割合

調査名	東京都脳卒中救急搬送体制実態調査(1)		東京都脳卒中救急搬送体制実態調査(2)	
調査期間	平成22年2月22日-3月1日		平成24年2月13日-2月20日	
	患者数(1)		患者数(2)	
全搬送件数	10,182		10,960	
脳卒中以外	9,769	95.9	10,562	96.4
脳卒中 小計	413	4.1	398	3.6
脳梗塞	258	62.5	189	47.5
一過性脳虚血発作	-	-	76	19.1
脳出血	117	28.3	100	25.1
くも膜下出血	38	9.2	30	7.5
分類不明	0	-	3	0.8

(1) 東京都脳卒中救急搬送体制実態調査 平成23年3月
 (2) 東京都脳卒中救急搬送体制実態調査(第2回) 平成25年3月

表9：虚血性心疾患と脳卒中の受診の様子

		外来			新入院		
		総数	虚血性心疾患	脳血管疾患	総数	虚血性心疾患	脳血管疾患
総数		5898	61.3	111.6	49.2	2	2.3
救急の受診		45.7	1	1.8	11.1	0.3	0.8
救急車により搬送	総数	15.3	0.5	1	5.1	0.2	0.6
	診療時間内の受診	7.3	0.2	0.4	2.6	0.1	0.3
	診療時間外の受診	7.9	0.3	0.6	2.4	0.1	0.2
徒歩や自家用車等による救急の受診	総数	30.4	0.5	0.9	6	0.1	0.3
	診療時間内の受診	12.5	0.3	0.4	3.5	0.1	0.2
	診療時間外の受診	17.9	0.2	0.5	2.5	0	0.1
通常受診		5852.3	60.3	109.8	38.1	1.7	1.5

平成23年患者調査

卒中) の場合は、21.4% (=0.6/2.8) であった(表9)。

第2回東京都脳卒中救急搬送体制実態調査(文献14)では圏域外へ救急搬送した脳卒中患者について報告されたが、西多摩二次医療圏からの流出・西多摩二次医療圏への流入の割合は1.0で、西多摩二次医療圏域では発症間もないの卒中患者は圏域内の急性期病院にほぼ収容できているものと考えられる(表10)。

(3) 急性期病院の脳卒中患者の様子

西多摩二次医療圏で脳卒中の急性期病院とした5つの病院について東京都医療機関情報システム“ひまわり”で公開されている1日入院患者数と平均在院日数から脳卒中患者の様子を推定する。この5つの急性期病院に年間29,530(人)が入院していることになり、そのうちおよそ3.7%を脳卒中患者が占めていることになる。在院日数は病院全体では14.4日だが、脳卒中患者の場合は24日と長くなる。一日平均患者数は病院全体のうち脳卒中患者が6.3%(=73/1163)を占めている(表11)。

表10：東京都の二次保健医療圏別の脳卒中疑いの救急搬送による流出，流入の割合

東京都二次医療圏	圏内発生	圏内搬送	圏外流出	他圏から流入	流出-流入	流出割合 (圏外流出／ 圏内発生)	流入割合 (他圏から流入／(圏内 搬送+他圏から流入)	流出数 ／流入数
区東北部	43	35	8	8	0	0.186	0.186	1
区東部	45	35	10	3	7	0.222	0.079	3.3
区西北部	47	26	21	4	17	0.447	0.133	5.3
区中央部	40	27	13	16	-3	0.325	0.372	0.8
区南部	27	25	2	4	-2	0.074	0.138	0.5
区西部	45	34	11	21	-10	0.244	0.382	0.5
区西南部	35	30	5	11	-6	0.143	0.268	0.5
北多摩北部	24	18	6	5	1	0.25	0.217	1.2
北多摩南部	24	19	5	12	-7	0.208	0.387	0.4
北多摩西部	18	12	6	5	1	0.333	0.294	1.2
南多摩	28	25	3	1	2	0.107	0.038	3
西多摩	10	8	2	2	0	0.2	0.2	1
合計	386	294	92	92	N/A	0.238	0.238	N/A

東京都脳卒中救急搬送体制実態調査（第2回）報告書より
注3）患者発生地と医療機関所在地を基準とした流出入

表11：西多摩二次医療圏での脳卒中患者の受療分布

	脳卒中						全体
	調査年				推計		
	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平均	標準偏差	ひまわり *
回答施設数	3	5	4	3	4	1	4
回答施設の一般病床総数 (回復期病床を除く)	1,445	1,445	1,445	1,445	1,445	0.0	1,490
回答病院一般病床数	1,099	1,445	1,269	1,099	1,228	165	1,314
患者数	786	1,043	989	898	929	113	28,314
推計患者数	1,033	1,043	1,126	1,181	1,096	70	29,530
前年平均在院日数	-	23.2	24.3	24.3	24.4	32.9	14.4
年間延べ患者数	-	24,198	24,033	21,821	23,351	1,327	407,101
推定年間総延べ患者数	-	24,198	27,339	28,691	26,743	2,305	424,587
一日平均入院患者数	-	66.3	65.8	59.8	64.0	3.6	1115.3
推計一日平均患者数	-	66.3	74.9	78.6	73.3	6.3	1163.3

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査
* 東京都医療機関情報システム“ひまわり”

表12：急性期病院からの移動（転出）先

	調査年												推計		
	平成21年度			平成22年度			平成24年度			平成26年度			平均	標準偏差	%
	調査値	%	推定数	調査値	%	推定数	調査値	%	推定数	調査値	%	推定数			
病院数	3		5	5		5	4		5	3		5			
一般病床数(回復期を除く)	1,099		1,445	1,445		1,445	1,269		1,445	1,099		1,445	1,445	0	
患者数	786		1,034	1,043		1,043	989		1,126	898		1,181	1,096	70.3	
在宅復帰	430	54.7	565.4	394	37.8	394	415	42	472.6	437	48.7	574.6	502	85.3	45.9
在宅療養が困難数	356	45.3	468.1	649	62.2	649	574	58	653.6	461	51.3	606.1	594	86.8	54.4
急性期病院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
回復期病床群	158	20.1	208	364	34.9	364	313	31.6	356.4	212	23.6	279	302	73.6	27.6
医療療養型病床	78	9.9	103	95	9.1	95	102	10.3	116.1	57	6.3	75	97	17.2	8.9
介護療養型病床	0	0	0	52	5	52	22	2.2	25.1	31	3.5	41	30	22.5	2.7
介護老人保健施設	20	2.5	26	36	3.5	36	32	3.2	36.4	15	1.7	20	30	8.1	2.7
介護老人福祉施設	27	3.4	36	34	3.3	34	46	4.7	52.4	7	0.8	9	33	17.8	3.0
死亡	58	7.4	76	46	4.4	46	41	4.1	46.7	117	13	154	81	50.8	7.4
その他	14	1.8	18	8	0.8	8	17	1.7	19.4	23	2.6	30	19	9.1	1.7

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査
 註) 各調査年の平均で推計しているために、その合計が患者数と一致しない。

(4) 急性期病院からの転出

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査では急性期病院から直接在宅に復帰した脳卒中患者は501.6(人)であり、急性期びよいんでの死亡は80.7(人)であった。在宅療養がすぐに開始できず施設へ他の施設への移動したものが606.1(人)で、そのうちの51.4%(=368.3/716)が回復期病床へ移動していた(表12)。

平成26年度には西多摩脳卒中医療連携検討会では、脳卒中及びその他の全疾患の年間総転院患者数の転出先を圏域内外で調査している。脳卒中の患者は全転院患者の25.9～31.6%を占め、およそ418~440(人)が転院している。そしてその内の84.1%(=

279/(279+53))は圏域内に転院していた。脳卒中以外の患者の場合は73.3%が圏域内に収容されたが、脳卒中の患者よりも圏域外に移動する患者が多かった(表13)。

以上より、脳卒中患者の診療は、急性期病院では圏域内での対応が比較的良好である一方で、他の疾患への対応については都市部に頼らざるを得ない状況ともいえる。

※調査1と2ともに平成26年の西多摩脳卒中医療連携検討会によるものだが、有効回答数が異なっており、調査1と2の脳卒中とそれ以外の疾患の比率も異なる

表13：急性期病院からの転出先

調査1	病床数	脳卒中			病床数	全疾病（脳卒中をのぞく）			
	調査合計	1,089	315			1,089	899		
	推定値	1,445	418			1,445	1,193		
	比率		25.9%				74.1%		
調査2		圏域内	圏域外	計		圏域内	圏域外	計	
	調査合計	1,089	279	53	332	773	374	136	510
	推定値	1,445	370	70	440	1,445	699	254	953
	比率				31.6%				68.4%
		84.1%	15.9%			73.3%	26.7%		

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査

注) 各調査年の平均で推計しているために、その合計が患者数と一致しない。

※ 調査1 急性期病院から転出した脳卒中及び全患者数についての比率を示す

※ 調査2 ではさらに転院先を圏域内と外で調査している

4. 回復期リハビリテーション病床群

(1) 回復期リハビリテーション病床群

回復期病床では入院日数の規定があり、また在宅復帰率を求められることから、他の医療療養型病床とは異なった患者の動きをするため病床区分による調査では回復期病床に特化した患者の動態をみる事ができない。そのため西多摩脳卒中医療連携検討会では西多摩二次医療圏に設置された回復期リハビリテーション病床のみを一括して機能回復訓練を積極的に行う回復期リハビリテーション病床群として一般病床・療養病床から切り離して調査している。ここでは回復期リハビリテーション病床を“回復期病床”と略す。

(2) 施設の転用

人口10万人当たりでみた回復期リハビリテーション病床数は、西多摩二次医療圏で53.1床、東京都全体では36.5（～40.1）床である。全国回復期リハ病床連絡協議会の調査（文献14）では西多摩二次医療圏には210床の病床が設置され、人口10万人あたり53.1床で全国並みであった（表14-1）。西多摩二次医療圏の一般病床からは1つの病院で回復期リハビリ

テーション病床を設置し、療養病床のうち3つの（療養病床の51.9%（=165/318））施設が回復期リハビリテーション病床を設置している（平成26年9月現在）。全国に比べて療養病床からの転用比率が高い（表14-2）。

(3) 回復期リハビリテーション病床の利用

西多摩二次医療圏に比べて東京都全体では回復期リハビリテーション病床が少ないことから、他の圏域から西多摩二次医療圏に脳卒中の患者が流入すると予測されたが、圏域外の患者は14%程度にとどまり、また急性期病院からの退院患者の転出先の調査でみると圏域外の回復期リハビリテーション病床をおよそ11.9%の患者が利用している（表18）

(4) 回復期リハビリテーション病床群の脳卒中患者の様子

平成26年度に行われた西多摩脳卒中医療連携検討会による調査では、年間およそ275（人）の脳卒中患者が回復期病床を利用している（一日当たり75.7（人））。回復期病床群に入院した総患者数は754（人）でそのうち脳卒中の患者は全体の51.9%（=391/

(689+65)) であった (表15).

(5) 回復期リハビリテーション病床群からの転出

回復期リハビリテーション病床で訓練を受けた脳卒中患者のうち68.9%が在宅へ戻っているが、31.5%は在宅へ戻ることが難しく、およそ13.1%が療養病床へ、9.3%が介護施設へ転出し、両者を合わせると22.4%になった。

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査でみると、回復期病床群から在宅へ復帰する脳卒中患者はおよそ190(人)で71.6%(=280/391)であった

が(表17)が、回復期病床に入院した全患者でみると、在宅復帰したものは361(人)(47.9%(=409-48)/754))で、他の施設へ移動したものが34(人)(45.8%)であった。徐々に急性期病院へ行く数が増え、介護療養型病床へ転出するの数は減っている。介護老人福祉施設 介護老人保健施設への転出は調査ごとによらつくが在宅へ戻るのは変わらない。

(6) 院内での移動

脳卒中患者の同一施設内の病床の変更については十分な調査は行われていない。また西多摩脳卒中医

表14-1：対人口10万当たりのリハビリテーション病床数

	全国	東京都全体	西多摩二次医療圏
回復期リハビリテーション病床数	65,670	4,803	210
人口	128,373,879	13,142,640	395,508
対人口10万比	51.2	36.5	53.1

平成25年3月全国回復期リハ病棟連絡協議会による調査

表14-2：対人口10万あたりの回復期リハビリテーション病床数

		東京都全体		西多摩二次医療圏	
人口			13,142,640.0		395,508.0
			対10万人		対10万人
病院・診療所数		85	0.6	4	1.0
一般病床総数		9,935	75.6	310	78.4
療養病床総数		6,008	45.7	408	103.2
適応保険	療養病床のうち医療保険適用	5,379	40.9	318	80.4
	療養病床のうち介護保険適用	629	4.8	90	22.8
病床数合計		21,951	167.0	1,126	284.7
内 回復期病床数		5,275	40.1	210	53.1
転用元	一般病床からの転用病床数	1,980	15.1	45	11.4
	療養病床からの転用病床数	3,143	23.9	165	41.7
	転用元が複数ないし不明のもの病床数	152	1.2	0	0.0

(東京都全体福祉保健局医療政策部) リハビリテーション医療実施医療機関名簿 (文献11)

表15：脳卒中患者の回復期リハビリテーション病床群での様子

	調査年								推計	
	平成21年度		平成22年度		平成24年度		平成26年度		平均	標準偏差
	調査値	推定数	調査値	推定数	調査値	推定数	調査値	推定数		
総施設数	2	4	4	4	3	4	4	4	4	0
総病床数	133	210	210	210	165	210	210	210	210	0
脳卒中患者数	153	242	260	260	163	207	391	391	275	80.4
平均在院日数	95.9		100.3		96.9		105.3		99.6	4.2
延べ患者数	14,673	23,208	26,078	26,078	15,795	20,058	41,172	41,172	27,629.0	9,357.4
一日平均患者数	40	64	71	71	43	55	113	113	75.8	25.7

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査

表16：脳卒中患者の回復期リハビリテーション病床群からの転出先（移動先）

	調査年												推計値			
	平成21年度			平成22年度			平成24年度			平成26年度			平均	標準偏差	%	
	調査値	%	推計	調査値	%	推計	調査値	%	推計	調査値	%	推計				
施設病床数	133		210	210			165			210		210	210.0	0.0		
患者数	153	%	242	260	%	260	163	%	207	391	%	391	275.0	80.4		
在宅復帰	85	55.6	134	191	71	191	120	73.6	153	280	71.6	280	189.5	64.8	68.9	
在宅療養が困難数	71	46.4	112	69	25.7	69	43	26.4	54	111	28.4	111	86.5	29.5	31.5	
内訳	急性期病院	7	4.6	11	12	4.5	12	16	9.8	20	25	6.4	25	17.0	6.7	6.2
	回復期病床群	2	1.3	3	0	0	0	1	0.6	1	0	0	0	1.2	1.5	0.4
	医療療養型病床	31	20.3	49	11	4.1	11	10	6.1	12	34	8.7	34	26.5	18.3	9.6
	介護療養型病床	16	10.5	25	5	1.9	5	3	1.8	4	4	1	4	9.5	10.5	3.5
	介護老人保健施設	7	4.6	11	21	7.8	21	9	5.5	11	24	6.1	24	16.7	6.8	6.1
	介護老人福祉施設	3	2	5	12	4.5	12	3	1.8	4	15	3.8	15	8.8	5.6	3.2
	死亡	3	2	5	2	0.7	2	2	1.2	2	4	1	4	3.2	1.4	1.2
その他	1	0.7	2	6	2.2	6	1	0.6	1	3	0.8	3	2.8	2.3	1.0	

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査

註) 各調査年の平均で推計しているために、その合計が患者数と一致しない。

表17：西多摩二次医療圏の回復期リハビリテーション病床群に入院した全患者の転出先

	脳卒中				全疾患	
	推計値平均		平成26年度推計			
	推定値	%	推定値	%	推定値	%
患者数	275		391		754	
在宅復帰	189.5	68.9	280	71.6	361	47.9
在宅療養が困難数	86.5	31.5	111	28.4	393	52.1
院外の施設への移動数					345	45.8
院内での移動					48	6.4

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査（平成26年）

療連携検討会で行われた4回の調査では、移動先が同一施設内であるか明記されていないため、他院の療養病床を利用しているかはっきりしない。平成26年に行われた調査でみると、院外の施設への移動する患者は45.8% (=345/754) であり、院内での移動が48(人)である(表17)ことから実際に施設の外に転出する患者は回復期病床群から移動するもの48(人)を引いた706 (= 754-48) (人)で、自宅へ戻れず院外の施設への移動する患者は345(人)と推測できる(表17)。ところが、療養病床への移動は38(人)であることから、他院を利用するものの数は少数と推定され(表16)、90%近くが圏域内の施設に移動していた。

回復期病床から転出した患者55(人)のうち急性期病院に移動した患者は17(人)で、療養病床へ移動した患者は38(人)であった。

5. 慢性期病院

(1) 慢性期病院の範囲

病状の安定する患者に対して長期間の入院医療を

提供する病院として、西多摩二次医療圏にある慢性期病院のうち11病院では療養病床や一般病床を併設する。東京都医療機関情報システム“ひまわり”を用いて、西多摩二次医療圏にある回復期病床を併設していない一般病院の一般病床および療養病床数に回復期病床を有する介護療養型病床数を慢性期病院の総病床数とし、療養病床に回復期を併設する3病院の医療保険適応(医療療養型)病床318床(回復期病床群153床およびその他の165床)を除いた2278床を対象にしている。

(2) 慢性期病院への転入前の状況

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査では慢性期に病院へ移動する患者のうち急性期病院からが53.8%だが、慢性期病院へ介護施設から移動したものは18.3% (= 5.6+12.7) で、在宅から入院したものが6.6%であった(表20)。平成23年の患者調査では療養病床を利用している患者をみると、他院からの転入(院外の施設からの移動)と在宅からの入院の数がほぼ同数で、この両者で88.1% (= (19.1+18.5)

表18：西多摩二次医療圏の回復期リハビリテーション病床群からの転出先(全疾患)

	全疾患				脳卒中			
	圏域内		圏域外		圏域内		圏域外	
		比率		比率		比率		比率
急性期病院	374	73.3	136	26.7	279	84.0	53	16.0
回復期病床群	304	88.1	41	11.9				
慢性期病院	485	75.0	162	25.0				

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査(H26年調査)

表19：西多摩二次医療圏の慢性期病院の病床の種類と調査対象病床

	病院数	一般病床		療養病床			合計	
			回復期	医療保険適用		介護保険適用		
					回復期			
回復期病床を併設していない慢性期病院	13	299	0	1,311	0	578	2,188	
回復期病床を併設する慢性期病院	3	0	0	(153)	(165)	90	90 (318)	
合計	対象とした病床	16	299	0	1,311	0	668	2,278
	対象から除外した病床	3	0	0	153	165	0	318

東京都医療機関情報システム“ひまわり”

表 20：脳卒中患者の慢性期病院への入院前の状況

	調査年												推計患者数		
	平成21年度			平成22年度			平成24年度			平成26年度			平均	標準偏差	比率
	調査値	比率	推定値	調査値	比率	推定値	調査値	比率	推定値	調査値	比率	推定値			
病床数	1,810	0.74	2,428	939	0.39	2,428	999	0.41	2,428	1,233	0.51	2,428	2,428	0	
施設数				7			9			8		16	8		
患者数	595		798	220		569	397		965	517		1,018	838	175.0	
入院前の状況	急性期病院			100	45.3	259	264	66.6	642	236	45.6	465	455	156.5	53.8
	回復期病床群			17	7.9	44	27	6.7	66	9	1.8	18	43	19.6	5.0
	医療療養型病床			35	16	91	18	4.6	44	80	15.4	158	98	46.8	11.5
	介護療養型			12	5.6	31	12	3	29	1	0.2	2	21	13.2	2.4
	介護老人保健施設			8	3.5	21	12	3.1	29	46	8.9	91	47	31.3	5.6
	介護老人福祉施設			32	14.6	83	31	7.9	75	84	16.2	165	108	40.7	12.7
	在宅			10	4.4	26	17	4.2	41	51	9.9	100	56	31.9	6.6
	その他			2	0.9	5	13	3.2	32	11	2.1	22	20	11.1	2.3

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査
 註) 各調査年の平均で推計したため、合計が患者数と一致しない。比率は各項目を合算して示す。

/42.7) となり、脳卒中患者について西多摩脳卒中医療連携検討会で行われた調査結果と異なっていた(表22)。

(3) 入院中の様子

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査によると慢性期病院では、脳卒中患者の場合、一日平均患者数は730(人)で、在院日数は318日であったが、全入院患者と比べて、脳卒中患者の一日平均患者数はおよそ1/3であったが、平均在院日数はおよそ3倍で

あった(表23)。

(4) 他の圏域施設の利用

西多摩二次医療圏域の慢性期病院へ移動した急性期病院あるいは回復期病床群からの患者数と、この圏域に設置されている慢性期病院へ入院する前の状況”をみる。急性期病院から移動する患者数をA、回復期病床群から移動するの患者数をBとすると送り手側の急性期病院からの転出先別患者数からAを引いたもの、回復期病床群からBを引いたものが圏

表21：各施設への圏域内外からの移動(脳卒中)(施設の所在地別)

	圏域内からの移動		圏域外からの移動	
	推計値	圏内外比 %	推計値	圏内外比 %
小計(急性期病院及び回復期病床群)	163	34.0	313	34.0
急性期病院	127	29.3	306	70.7
回復期病床群	36	83.7	7	16.3
慢性期病院	47		=	
介護老人保健施設	118		=	
総計	328	51.2	313	48.8

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査(平成26年)

表22：推計退院患者数，入院前の状況（全患者）（患者の居住地別）

		療養病床			一般病床
		合計	医療保険適用病床	介護保険適用病床	
総数		42.7	38.5	4.3	1107.3
家庭		18.5	16.4	2	1015
	当院に通院	9.2	8.3	0.9	688.3
	他の病院・診療所に通院	5.3	4.9	0.4	202.8
	在宅医療（訪問診療・訪問看護等）	1.4	1.0	0.4	7.4
	その他	2.5	2.2	0.3	116.5
他の病院・診療所に入院		19.1	17.3	1.8	35.7
	地域医療支援病院・特定機能病院	6.1	5.8	0.3	10.3
	その他の病院	12.8	11.3	1.5	23.8
	診療所	0.2	0.2	0.0	1.6
介護老人保健施設に入所		2	1.8	0.2	11.6
介護老人福祉施設に入所		1.5	1.4	0.1	12.6
社会福祉施設に入所		1.2	1.1	0.0	5.0
その他（新生児・不明等）		0.6	0.4	0.2	27.3

平成23年患者踏査

表23：脳卒中患者の慢性期病院での様子

	脳卒中										ひまわり*
	平成21年度		平成22年度		平成24年度		平成26年度		推計患者数		推計患者数
	回答	推定値	回答	推定値	回答	推定値	回答	推定値	平均	標準偏差	
回答施設数	12		7		9		8		9	2	16
患者数	595	798	220	569	397	965	517	1018	838	492	7,450.1
病床数	1,810	2,428	939	2,428	999	2,428	1,233	2,428	2,428	0	2,428
平均在院日数	364.5		152.2		363.0		332.0		318.0		104.6
年間延べ患者数	216,580	290,887	33,220	86,004	144,111	350,685	171,644	338,416	266,498	78,053	779,173.5
一日平均患者数	593.4	797.0	91.0	235.6	394.8	960.8	470.3	927.2	730.1	213.8	2134.7

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査 *東京都医療機関情報システム“ひまわり”
 註) 各調査年の平均で推計しているために、その合計が患者数と一致しない。

域内で移動した患者数であることが予測できる（表21）。具体的には慢性期病院へは急性期病院からは455.3（人）、回復期病床群からは42.7（人）が移動し合計498.0（人）の患者を慢性期病院が受け入れている。すなわち344.3（人）（= 498.0-153.7）を圏域外の急性期病院あるいは回復期病床から受け入れている（表20）ことになる。慢性期病院へ移動した脳卒中患者は、西多摩二次医療圏の急性期病院から127.7（人）（= 97.2+29.5）、回復期病床群からは36.0（人）（= 26.5+9.5）で、両者を合わせて163.7（人）

であった。（但し、回復期から慢性期病院へは同一施設内で移動している可能性がある）。院外の施設からの慢性期病院への移動は圏域外の急性期病院と回復期病床群を合わせて163（人）で、圏域外の急性期病院と回復期病床群からの移動が313（人）で、急性期病院と回復期病床群に限れば圏域外からの転入は65.8%（=313/313+163（+47+118））になる。西多摩二次医療圏では圏域外から慢性期病院を利用する患者が多く、回復期病床群から療養病床への脳梗塞患者が移動するのは36（人）で（表16）、送り

手および受け手がほぼ同数（25+9.2≒34前後）で、圏域外の回復期病床群から慢性期病院へ43（人）が転入している。

脳卒中患者の場合、回復期病床群に移動するものの90%近くが圏域内の施設に移動するが、慢性期病院に転入する脳卒中患者は圏域外から流入する患者の割合が大きくなる。

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査では病床区分ごとでなく急性期病院あるいは慢性期病院としての調査のため比較することはできないが、全疾患でみた患者調査によれば西多摩二次医療圏の療養病床のうちの医療療養型病床を他の圏域に居住している患者が利用し介護療養型病床では75%を占め、療養病床の6割を占めていた。

西多摩脳卒中医療連携検討会では全入院患者の居住地別割合を調査したが、急性期病院では32.8%が、慢性期病院では25%が圏域外患者であったが、回復期病床は11.9%で、他の圏域の患者は少なかった（表24-1）。一般病床に入院している全患者の23.1%が

圏域外に居住していたが、療養病床では59.1%が圏域外に居住している患者であった（表24-2）。

(5) 脳卒中患者の慢性期病院内での移動

慢性期病院にはおよそ838（人）の脳卒中患者が新たに入院しているが（表20、表23で表26に一致する。表25-1ではやや少ない）。他の施設からの入院に加えて自宅からの入院を合わせた数と一致する。一方で死亡数は427（人）（表25）で、4回の調査の推定された405（人）（表23）より少なく算出される。

西多摩脳卒中医療連携検討会による脳卒中患者の調査では、慢性期病院に入院している患者のうち93.4%は在宅療養が難しく、その内死亡するものが48.3%に上っている。また他の施設へ少なくとも29.9（=22.7+3+4.2）%が移動している。

退院患者を把握することは患者の動きを検討するときに重要であるが、慢性期病院として扱われる病院では一般病床、回復期リハビリテーション病床、医療療養型病床、介護保険適応病床等に病床が区分

表24-1：西多摩二次医療圏内の医療機関に入院中の患者の圏域外への移動（全疾患）

病院・病床区分		二次医療圏内		二次医療圏外	
		実数（人）	圏内外比（%）	実数（人）	圏内外比（%）
急性期病院	全疾患	374	73.3	136	32.8
	脳卒中（参考）	279	84.0	53	16.0
回復期病床群		304	88.1	41	11.9
慢性期病院		485	75.0	162	25.0

西多摩脳卒中医療連携検討会による調査（平成26年）

表24-2：西多摩二次医療圏内の医療機関に入院中の患者の居住地別割合（全疾患）

		実数（千人）	圏内外比（%）	実数（千人）	圏内外比（%）
一般病床（病院）		1.0	76.9	0.3	23.1
療養病床（総数）		0.9	40.9	1.3	59.1
	医療療養型病床	0.7	50.0	0.7	50.0
	介護療養型病床	0.2	25.0	0.6	75.0
精神病床		0.8	33.3	1.6	66.7

平成23年 患者調査